

ベストクラス選定理由書

作成者：中井悠太・松尾卓磨・中村光実・北条雄也・田中陽登・石原美蓮・村松優萌・永田智子

科目名称	英語コミュニケーションIV (⑤クラス) (担当教員名：大西里奈)		
課程	： 学部	開講時期	： 後期
授業形態	： 演習	授業規模	： 31人～80人
インタビュー対象教員名 大西里奈 (実施日時：9月3日； 実施場所：Zoom上)			
インタビュー対象受講者名 植松美帆・中村伊吹 (実施日時：9月3日； 実施場所：Zoom上)			
選定理由			
1. 学生と教員の協働性の高さ この授業では、「教師主導ではなく、学生が授業を作り上げていく」ことを教員が明確に意識して設計しており、学生同士の関係構築や協同する必然性のある課題に取り組むを中心としている。絵本制作やグループでの情報交換、相談など、学生が主体的に関わらなければ成立しない課題が多く、自然と協働が促されるようになっている。 学生からも「絵本作りを通して仲が深まった」「一人だけがイラストを見て英語で伝える活動が印象的だった」といった声があった。			
2. 教員の設計意図と学生の受け止めの一一致 教員は、英語の文化的・社会的背景を踏まえた教材選定や、オンデマンドと対面の使い分けを通じて、学生の多様な学び方に対応している。学生は「自然にねらいを受け取っていた」「雰囲気が良くて積極的に取り組めた」と語っており、教員の意図と学生の受け止めが一致していた。			
3. 学生の主体性と授業への積極的参加 学生は「英語が苦手だったがこの授業は楽しめた」「活動に熱中するあまり、思わず声が上がってしまうほどだった」と語っており、主体的に学習に取り組めた様子がうかがえた。オンデマンド教材も「2回見直すほど面白い」との声があり、学習意欲の高まりがうかがえる。 また、課題に対しても「すぐに取り組みたくなる」「楽しく取り組めた」との声があり、学生が自発的に学びに向かう姿勢が育まれている。			
4. 学びの日常的・将来的な活用 学生は「留学に活かせた」「英語の楽しさを知り、海外に行きたいと思った」「日常でスラングを使うようになった」と語っており、授業での学びが日常生活や将来の進路に結びついている。これは、授業が単なる知識の習得にとどまらず、学生の生活や将来設計に影響を与えるものであったことがわかる。			